

< 題材計画表 >

時	学習内容	評価				
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	<p>混声3部合唱の響きを感じて歌おう <12時間完了> 「夢の世界を」(表現:歌唱) 「校歌」(表現:歌唱)</p>	<p>目 標</p> <p>知 曲想と「旋律」や「テクスチュア」の働きとの関わりを理解する。 「旋律」や「テクスチュア」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</p> <p>思 「旋律」や「テクスチュア」の働きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて考え、思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりする。</p> <p>態 「旋律」や「テクスチュア」の働きかたの多様性に関心をもち、表現の工夫を試行錯誤したり、振り返ったりしながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。</p>				
1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	<p>【つかむ場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">混声3部合唱の響きを感じて歌おう</div> <ul style="list-style-type: none"> 課題を達成するための「試行錯誤するポイント」を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①旋律をいかした表現 ②テクスチュアをいかした表現 </div> <ul style="list-style-type: none"> 「旋律」や「テクスチュア」はどのような特徴のある音楽を形づくっている要素なのかを知る。 <p>【拡散的思考】</p> <p>『夢の世界を』第1～3時限</p> <ul style="list-style-type: none"> 混声3部合唱と同声2部合唱の違いを知る。 個々がつ声の音域に合わせ、パート分けを行う。 各パートの楽譜の読み方を知る。 各パートで「旋律」の働きを考える。 考えたことを全体で共有する。 考えたことを基にパート音源を聴きながらパートで音取りをする。 各パートの音取りができたところで、各パートで「テクスチュア」の働きを考える。 考えたことを全体で共有をする。 考えたことをもとに、混声3部合唱に取り組む。 毎時間の終わりに、「試行錯誤するポイント」に関して、今後生かせそうなことを記録する。 <p>『校歌』第4時限</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の「校歌」は混声3部合唱であることと、前半・中間・後半の三つの場面に分かれていることを知る。 楽譜を見ながら音源を聴き、各場面の曲想と、「旋律」や「テクスチュア」がどのような働きがあるのかを考える。 考えたことを全体で共有する。 考えたことを基に、個人で「表現のめあて」を設定する。 「試行錯誤するポイント」が生かされた「表現のめあて」になっているか振り返る。【拡M①】 	A	<p>曲想と「旋律」や「テクスチュア」の働きとの関わりを理解している。</p>	<p>「旋律」や「テクスチュア」の働きを理解し、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>	A	<p>「旋律」や「テクスチュア」の働きかたの多様性に関心をもって取り組もうとしている。また、他者と意見を共有する中で、自己の表現だけでなく、パートで表現をより高められるよう、試行錯誤をしたり、振り返ったりしながら取り組もうとしている。</p>
		B	<p>曲想と「旋律」、もしくは「テクスチュア」の働きとの関わりを理解している。</p>	<p>「旋律」の働き、もしくは「テクスチュア」の働きを理解し、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>		
				方法	<p>学習プリントの記述</p>	<p>学習プリントの記述</p>
5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10	<p>【つくる場】</p> <p>【拡散的思考】</p> <p>『校歌』第5～10時限</p> <ul style="list-style-type: none"> どのように音取りをすると「旋律」の働きを確実に捉えた歌い方になるのかを考える。 考えたことを全体で共有する。 考えたことを基に、Chromebookの音源を使って個人で音取りをする。 個人練習後、「旋律」の働きを捉えて歌うことができたか振り返りをする。 	A	/	<p>「旋律」や「テクスチュア」の働きかたを試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、明確な思いや意図をもっている。</p>		
		B		<p>「旋律」、もしくは「テクスチュア」の働きかたを試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、思いや意図をもっている。</p>	方法	<p>活動の様子 学習プリントの記述</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返ったことを基に、他の場面の音取りを行う。 ・パート練習を行う前に、どのように音取りをすると、「テクスチュア」の働きを捉えた歌い方になるのか考える。 ・考えたことをパートで共有する。 ・考えたことを基に、パートリーダーを中心にパート練習に取り組む。 ・混声3部合唱に取り組む。 ・パート練習後、「テクスチュア」の働きを捉えて歌うことができたか振り返る。 ・「表現のめあて」を見直し、再設定する。 ・パートを二つに分け、互いの演奏を鑑賞し合わせ、より「旋律」や「テクスチュア」を生かした「表現のめあて」になるように意見交換し合う。 <p>【拡M②】</p> <p>【収束的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器で録音し、客観的に自分たちの演奏を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録音した音源を基に、「表現のめあて」を決定する。【収M】 	方法		活動の様子 学習プリントの記述	
11 ・ 12	<p>【ふりかえる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 ・他の人の演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。 <p>【拡・収RM】</p>	方法	<p>A 「旋律」と「テクスチュア」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。</p> <p>B 「旋律」、もしくは「テクスチュア」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。</p> <p>発表 学習プリントの記述</p>		

< 題材計画表 >

時	学習内容	評価				
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	<p>題材名</p> <p>曲想と音楽を形づくっている要素の働きとの関わりを感じ取ろう < 8時間完了 > 「春」(鑑賞) 「赤とんぼ」(表現：歌唱) 「夢の世界を」(表現：創作)</p>	<p>目標</p> <p>知 曲想と「旋律」や「強弱」の働きとの関わりを理解する。 「旋律」や「強弱」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</p> <p>思 「旋律」や「強弱」の働きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、試行錯誤しながらどのように指揮で表現するかについて考え、思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりする。</p> <p>能 「旋律」や「強弱」の働かせ方の多様性に関心をもち、表現の工夫を試行錯誤したり、振り返ったりしながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。</p>				
1 2 3 4	<p>【つかみ場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 音楽を形づくっている要素の働きと曲想の関わりを感じ取ろう </div> <ul style="list-style-type: none"> 課題を達成するための「試行錯誤するポイント」を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①旋律をいかした表現 ②強弱をいかした表現 </div> <ul style="list-style-type: none"> 「旋律」や「強弱」とはどのような特徴のある音楽を形づくっている要素なのかを知る。 <p>【拡散的思考】</p> <p>『春』第1・2時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ソネットについて知る。 場面A～Eの部分ごとに区切って聴き、曲想(情景)について感受したことをワークシートに記入する。 再び場面A～Eを部分ごとに区切って聴き、「旋律」や「強弱」の働きがどのように変化しているのか知覚したことをワークシートに記入する。 場面A～Eの各部分における、曲想と音楽の構造との関わりについて考える。 考えたことについて、全体で意見を共有する。 本楽曲で使用されている楽器を知る。 曲全体をDVDで鑑賞する。 曲想と音楽の構造との関わりについて考えたことを、批評文にまとめる。 <p>・「試行錯誤するポイント」に関して、今後生かせそうなことを記録する。</p> <p>『赤とんぼ』第3・4時限</p> <ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴いて、曲の全体像を捉える。 本楽曲を聴き、感受した曲想や、情景をワークシートにまとめる。 	A	<p>曲想と「旋律」や「強弱」の働きとの関わりを理解している。</p> <p>「旋律」や「強弱」の働きを理解しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>		<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>「旋律」や「強弱」の働かせ方の多様性に高い関心をもって取り組もうとしている。また、他者と意見を共有する中で、自己の表現だけでなく、グループで表現をより高められるよう、試行錯誤をしたり、振り返りながら取り組もうとしている。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> 場面A～Eの各部分における、曲想と音楽の構造との関わりについて考える。 考えたことについて、全体で意見を共有する。 本楽曲で使用されている楽器を知る。 曲全体をDVDで鑑賞する。 曲想と音楽の構造との関わりについて考えたことを、批評文にまとめる。 <p>・「試行錯誤するポイント」に関して、今後生かせそうなことを記録する。</p> <p>『赤とんぼ』第3・4時限</p> <ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴いて、曲の全体像を捉える。 本楽曲を聴き、感受した曲想や、情景をワークシートにまとめる。 	B	<p>曲想と「旋律」、もしくは「強弱」の働きとの関わりを理解している。</p> <p>「旋律」の働き、もしくは「強弱」の働きを理解し、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 歌詞や、作詞者の言葉を朗読し、作詞者の思い描いた情景を考える。 考えたことを、全体で共有する。 情景を思い浮かべながら歌唱する。 楽譜を見て、「旋律」や「強弱」の働きについて知覚したことをワークシートにまとめる。 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考えたことをまとめる。 考えたことを、全体で共有をする。 共有したことを基に、歌詞の内容や曲想を生かすための音楽表現について、グループで話し合う。 歌い方について考えたことをワークシートに記入する。 「試行錯誤するポイント」に関して、今後生かせそうなことを記録する。 次時から「夢の世界を」を、グループで指揮をすることで、音楽を身体表現することを伝える。 	方法	<p>学習プリントの記述</p> <p>学習プリントの記述</p>	B	<p>「旋律」や「強弱」の働かせ方に関心をもち取り組もうとしている。また、他者からの助言を参考に、自己の表現を試行錯誤しながら取り組もうとしている。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・第1～4時限までの考えを基に、個人で「夢の世界を」の「表現のめあて」を設定する。 ・「試行錯誤するポイント」がいかされた「表現のめあて」になっているか振り返る。【拡M①】 				
5 ・ 6 ・ 7	<p>【つくる場】 【拡散的思考】 『夢の世界を』第5～7時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲を聴いて感受したことを、A場面、B場面と分けてワークシートにまとめる。 ・楽譜A場面、B場面で比較し、「旋律」や「強弱」の働きについて知覚したことをワークシートにまとめる。 ・曲想と音楽の構造との関わりについて考えたことをまとめる。 ・考えたことを、グループで共有をする。 ・「試行錯誤するポイント」である「旋律」や「強弱」の働きを生かした指揮となるよう、グループで創作を行う。 ・「表現のめあて」を見直し、再設定する。 ・各グループで、互いの指揮を鑑賞し合わせ、より「旋律」や「強弱」を生かした「表現のめあて」になるように意見交換し合う。【拡M②】 <p>【収束的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器で録画し、客観的に自分たちの指揮を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録画した映像を基に、「表現のめあて」を決定する。【収M】 	A	<p>「旋律」や「強弱」の働かせ方を試行錯誤しながらどのように指揮で表現するかについて、明確な思いや意図をもっている。</p> <p>「旋律」、もしくは「強弱」の働かせ方を試行錯誤しながらどのように指揮で表現するかについて、思いや意図をもっている。</p> <p>活動の様子 学習プリントの記述</p>	方法	活動の様子 学習プリントの記述
		B			
		方法			
8	<p>【ふりかえる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 ・他のグループの演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。 <p>【拡・収RM】</p>	A	<p>「旋律」と「強弱」の働きを生かした表現をするために必要な技能を身に付けている。</p> <p>「旋律」、もしくは「強弱」の働きを生かした表現をするために必要な技能を身に付けている。</p> <p>創作作品、発表 学習プリントの記述</p>		
B					
方法					

< 題材計画表 >

時	学習内容	評価				
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	<p>題材名</p> <p>旋律や音色の働きをいかして表現しよう <7時間完了> リコーダー童謡曲集 (表現：器楽) 「虹の彼方に」 (表現：器楽)</p>	<p>目標</p> <p>知 曲想と「旋律」や「音色」の働きとの関わりを理解する。 「旋律」や「音色」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</p> <p>思 「旋律」や「音色」の働きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて考え、思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりする。</p> <p>態 「旋律」や「音色」の働かせ方の多様性に関心をもち、表現の工夫を試行錯誤したり、振り返ったりしながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。</p>				
1 2 3 4	<p>【つかむ場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 旋律や音色の働きをいかして表現しよう </div> <ul style="list-style-type: none"> 課題を達成するための「試行錯誤するポイント」を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> ①旋律をいかした表現 ②音色をいかした表現 </div> <ul style="list-style-type: none"> 「旋律」や「音色」はどのような特徴のある音楽を形づくっている要素なのかを知る。 <p>【拡散的思考】</p> <p>『リコーダーの基礎を知る』第1～3時限</p> <ul style="list-style-type: none"> リコーダーの歴史、リコーダーの種類等を知る。 リコーダーの奏法の基本となる姿勢、タンギング、チューニングのやり方等を知る。 ド～ソの運指を知る。 童謡曲集のド～ソの音が使われた曲に取り組む。 アーティキュレーションについて知る。 楽曲を聴き、アーティキュレーションの違いにより、「音色」がどのように変わるのかを、ワークシートにまとめる。 童謡曲集ド(2点ハ)～ド(3点ハ)の音が使われた曲に取り組む。 各楽曲に合わせたアーティキュレーションを工夫する。 「試行錯誤するポイント」(「音色」のみ)に関して、今後生かせそうなことを記録する。 <p>『虹の彼方に』第4時限</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽曲を聴き、曲の全体像を捉える。 感受した曲想をワークシートにまとめる。 場面ごとに楽曲を分けて聴き、「旋律」について知覚したことをワークシートにまとめる。 考えたことについて、全体で意見を共有する。 共有したことを基に、曲想や音楽の構造を生かすための音楽表現について、グループで話し合う。 奏法について考えたことを自分なりの考えをまとめ、ワークシートに記入する。 「表現のめあて」を設定する。 「試行錯誤するポイント」が生かされた「表現のめあて」になっているか振り返る。【拡M①】 	A	曲想と「旋律」や「音色」の働きとの関わりを理解している。	「旋律」や「音色」の働きを理解し、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。	A	「旋律」や「音色」の働かせ方の多様性に高い関心をもち、取り組もうとしている。また、他者と意見を共有する中で、自己の表現について見直し、表現をより高められるよう、試行錯誤したり、振り返ったりしながら取り組もうとしている。
		B	曲想と「旋律」、もしくは「音色」の働きとの関わりを理解している。	「旋律」の働き、もしくは「音色」の働きを理解し、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。		「旋律」や「音色」の働かせ方に関心をもち、取り組もうとしている。また、他者からの助言を参考に、自己の表現を試行錯誤しながら取り組もうとしている。
				方法	学習プリントの記述	学習プリントの記述
5 6	<p>【つくる場】</p> <p>【拡散的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「試行錯誤するポイント」である「旋律」や「音色」の働きが生かされる奏法となるよう、練習に取り組む。 「表現のめあて」を見直し、再設定する。 グループを作り、互いの演奏を鑑賞し合わせ、より「旋律」や「音色」を生かした「表現のめあて」になるように意見交換し合う。【拡M②】 	A	/	「旋律」や「音色」の働かせ方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、明確な思いや意図をもっている。		
		B		「旋律」、もしくは「音色」の働かせ方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、思いや意図をもっている。	方法	活動の様子 学習プリントの記述

	<p>【収束的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器で録音し、客観的に自分たちの演奏を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録音した音源を基に、パートで「表現のめあて」を決定する。【収M】 	方法	活動の様子 学習プリントの記述	
7	<p>【ふりかえる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 ・他の人の演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。 <p>【拡・収RM】</p>	A 「旋律」と「音色」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。		
B	「旋律」、もしくは「音色」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。			
方法	発表 学習プリントの記述			

< 題材計画表 >

時	学習内容	評価				
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
題材名	<p>旋律やテクスチャの働きをいかして表現しよう <12 時間完了> 『浜辺の歌』(表現：歌唱) 『空は今』(表現：歌唱) 『エーデルワイス』(表現：創作)</p>	目標	<p>知 曲想と「旋律」や「テクスチャ」の働きとの関わりを理解する。 「旋律」や「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</p> <p>思 「旋律」や「テクスチャ」の働きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて考え、思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりする。</p> <p>態 「旋律」や「テクスチャ」の働きやその多様性に関心をもち、表現の工夫を試行錯誤したり、振り返ったりしながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。</p>			
1 2 3 4 5 6 7 8	<p>【つかむ場】 ・課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 旋律やテクスチャの働きをいかして表現しよう </div> <p>・課題を達成するための「試行錯誤するポイント」を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①旋律をいかした表現 ②テクスチャをいかした表現 </div> <p>・「旋律」や「テクスチャ」はどのような特徴のある音楽を形づくっている要素なのかを知る。</p> <p>【拡散的思考】 『浜辺の歌』第1・2時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、曲の全体像を捉える。 ・本楽曲を聴き、感受した曲想や、情景をワークシートにまとめる。 ・歌詞や、作詞者の言葉を朗読し、作詞者の思い描いた情景を考える。 ・考えたことを、全体で共有する。 ・情景を思い浮かべながら歌唱する。 ・楽譜を見て、「旋律」の働きについて知覚したことをワークシートにまとめる。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考えたことをまとめる。 ・考えたことを、全体で共有をする。 ・共有したことを基に、歌詞の内容や曲想を生かすための音楽表現について、グループで話し合う。 ・歌い方について考えたことをまとめ、ワークシートに記入する。 <p>・「試行錯誤するポイント」(「旋律」のみ)に関して、今後生かせそうなことを記録する。</p> <p>『空は今』第3～7時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四つの場面に分けて、アナリーゼを行う。 ・範唱を聴いて、曲の全体像を捉える。 ・本楽曲を場面ごとに分けて聴き、感受した曲想をワークシートにまとめる。 ・本楽曲を場面ごとに分けて聴き、「旋律」について知覚したことをワークシートにまとめる。 ・本楽曲を通して聴き、「テクスチャ」について知覚したことをワークシートにまとめる。 ・四つの場面の曲想と音楽の構造との関わりについて考える。 ・考えたことについて、全体で意見を共有する。 ・共有したことを基に、曲想や音楽の構造を生かすための音楽表現について、グループで話し合う。 ・歌い方について考えたことをまとめ、ワークシートに記入する。 <p>・「試行錯誤するポイント」に関して、今後生かせそうなことを記録する。</p>	A	<p>曲想と「旋律」や「テクスチャ」の働きとの関わりを理解している。</p>	<p>「旋律」や「テクスチャ」の働きを理解し、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>	A	<p>「旋律」や「テクスチャ」の働きやその多様性に関心をもって取り組もうとしている。また、他者と意見を共有する中で、自己の表現だけでなく、ペアで表現をより高められるよう、試行錯誤をしたり、振り返ったりしながら取り組もうとしている。</p>
		B	<p>曲想と「旋律」、もしくは「テクスチャ」の働きとの関わりを理解している。</p>	<p>「旋律」の働き、もしくは「テクスチャ」の働きを理解し、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>		
		方法	学習プリントの記述	学習プリントの記述	B	<p>「旋律」や「テクスチャ」の働きやその多様性に関心をもって取り組もうとしている。また、他者からの助言を参考に、自己の表現を試行錯誤しながら取り組もうとしている。</p>

	<p>『エーデルワイス』第8時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、曲の全体像を捉える。 ・感受した曲想をワークシートにまとめる。 ・主旋律の「旋律」について知覚したことをワークシートにまとめる。 ・リコーダーで主旋律の音取りをする。 ・個人で「表現のめあて」を設定する。 ・「試行錯誤するポイント」が生かされた「表現のめあて」になっているか振り返る。【拡M①】 					
9 ・ 10 ・ 11	<p>【つくる場】 【拡散的思考】</p> <p>『エーデルワイス』第9～11時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律の知覚したことや、感受したことを基に、副旋律の創作を行う。 ・『空は今』の「テクスチャ」の働きについて復習し、それらの働きを生かして、リコーダーを用いて創作を行う。 ・「試行錯誤するポイント」である「旋律」や「テクスチャ」の働きが生かされる奏法となるよう、ペアで練習に取り組む。 ・「表現のめあて」を見直し、再設定する。 ・各ペアで、互いの演奏を鑑賞し合わせ、より「旋律」や「テクスチャ」を生かした「表現のめあて」になるように意見交換し合う。【拡M②】 <p>【収束的思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器で録音し、客観的に自分たちの演奏を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録音した音源を基に、「表現のめあて」を決定する。【収M】 	A		「旋律」や「テクスチャ」の働かせ方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、明確な思いや意図をもっている。		
		B		「旋律」、もしくは「テクスチャ」の働かせ方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、思いや意図をもっている。	方法	活動の様子 学習プリントの記述
		方法		活動の様子 学習プリントの記述		
12	<p>【ふりかえる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 ・他のペアの演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。 <p>【拡・収RM】</p>	A	「旋律」と「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。			
		B	「旋律」、もしくは「テクスチャ」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。			
		方法	創作作品、発表 学習プリントの記述			

<題材計画表>

時	学習内容	評価				
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	<p>旋律や音色の働きをいかして表現しよう <5時間完了> 『きらきら星』(表現:器楽) 『ふるさと』(表現:器楽)</p>	<p>目標</p> <p>知 曲想と「旋律」や「音色」の働きとの関わりを理解する。 「旋律」や「音色」の働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</p> <p>思 「旋律」や「音色」の働きを知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、試行錯誤しながら、どのように表現するかについて考え、思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりする。</p> <p>態 「旋律」や「音色」の働かせ方の多様性に関心をもち、表現の工夫を試行錯誤したり、振り返ったりしながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。</p>				
1・2	<p>【つかむ場】 ・課題を知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">旋律や音色の働きをいかして表現しよう</p> <p>・課題を達成するための「試行錯誤するポイント」を知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">①旋律をいかした表現 ②音色をいかした表現</p> <p>【拡散的思考】 『きらきら星』第1時限 ・曲を聴き、気付いたことや感じたことなどについて話し合う。 ・「旋律」や「音色」の働きを知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・考えたことを全体で共有した後、どのように音楽で表現するのか試行錯誤する。 ・「試行錯誤するポイント」に関して、今後生かせるようなことを記録する。 『ふるさと』第2時限 ・曲を聴き、気付いたことや感じたことなどについて話し合う。 ・「旋律」や「音色」の働きを知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・個人で「表現のめあて」を設定する。 ・「試行錯誤するポイント」が生かされた「表現のめあて」になっているか振り返る。【拡M①】</p>	A	<p>曲想と「旋律」や「音色」との働きとの関わりを十分に理解している。</p>	<p>「旋律」や「音色」の働きを理解し、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>	A	<p>「旋律」や「音色」の働かせ方の多様性に高い関心をもって取り組もうとしている。また、他者と意見を共有する中で、自己の表現だけでなく、ペアで表現をより高められるよう、試行錯誤をしたり、振り返ったりしながら取り組もうとしている。</p>
		B	<p>曲想と「旋律」の働き、もしくは「音色」との働きとの関わりを理解している。</p>	<p>「旋律」の働き、もしくは「音色」の働きを理解し、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。</p>		
		方法	<p>学習プリントの記述</p>	<p>学習プリントの記述</p>	B	<p>「旋律」や「音色」の働かせ方に関心をもって取り組もうとしている。また、他者からの助言を参考に、自己の表現を試行錯誤しながら取り組もうとしている。</p>
3・4	<p>【つくる場】 ・「表現のめあて」を基に、ペアで意見交換し、表したいことを考える。 ・「旋律」や「音色」をどのように工夫すれば、表したいことを表すことができるのかについて練習しながら追究する。 ・「表現のめあて」を見直し、再設定する。 ・ペアで鑑賞し合わせ、より「旋律」や「音色」を生かした「表現のめあて」になるように意見交換し合う。【拡M②】</p> <p>【収束的思考】 ・ICT機器で録音し、客観的に自分の演奏を振り返る。 ・伝えられたアドバイスや録音した音源を基に「表現のめあて」を決定する。【収M】</p>	A	/	<p>「旋律」や「音色」の働かせ方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、明確な思いや意図をもっている。</p>	方法	<p>活動の様子 学習プリントの記述</p>
		B		<p>「旋律」、もしくは「音色」の働かせ方を試行錯誤しながらどのように音楽で表現するかについて、思いや意図をもっている。</p>		
方法	<p>活動の様子 学習プリントの記述</p>					
5	<p>【ふりかえる場】 ・発表会をする。 ・他の人の演奏を鑑賞する。 ・題材を通して学んだことを振り返る。</p> <p>【拡・収RM】</p>	A	<p>「旋律」や「音色」の働きを生かした表現をするために必要な技能を身に付けている。</p>	/	方法	
		B	<p>「旋律」の働き、もしくは「音色」の働きを生かした表現をするために必要な技能を身に付けている。</p>			
		方法	<p>発表 学習プリントの記述</p>			